

### 3—症状別対応

#### ① 呼吸障害

いびき様の呼吸や不規則な呼吸は、介助が必要になる。

##### 【介助者が確保できるとき】

下顎の挙上法を行う（図）。下顎角を挙上させるほうが、長時間維持しやすい。

##### 【介助者が確保できないが、その場を離れる必要があるとき】

横向きうつぶせのコーマポジションを取る。舌根の沈下や嘔吐による気道閉塞にも対応できる。



図 下顎角挙上法

## 心得 **Do!** やるべからず

仰臥位で観察する。  
仰臥位の状態で重症者を1人にする。

## 2 出血

- 出血しているポイントを探す→頭部・上肢・下肢・胸部・腹部など。
- 出血点の直接圧迫→ハンカチや布で圧迫する。タオルは柔らかく、止血効果が低いので要注意。

### 【出血部位が広範囲の場合】

出血のエリアが広くて手で圧迫できないので、出血部位より心臓側の主幹動脈を圧迫する。

### 【通常の圧迫で止血しない場合】

出血部位より心臓側で腕・脚ごと縛る。

## 心得 **Do!** すべし

破傷風の危険もあるので、砂や泥・石などの異物があれば、なるべく止血前に創部を洗浄する。

大量に出血してるときには、循環血液量が低下している。水分摂取を行うか、無理なら下肢を挙上する。循環血液量の維持に多少の効果がある。